

氏は石狩夕張町臼井呉服店に永年勤務し支配人格たりしが望まれて養子となり明治四十四年十月現所に合家開業せり、大正三年八月合名会社組織となし夕張店を本店に、支店として氏自ら支配人たりし事ありしも同十二年末会社組織を解さるる夫個人の店舗として現所を經營せるものなり、大等夫妻は如才なく顧客に接し居りて營業に熱心なれば漸次業況が衰へて去るに現今は市一流の店舗として重きを爲すに盡し、資産の脊景としては世評十五万円と稱

され經營振田滑にして常に若干の餘裕あり、支那振奇麗なれば問屋側の印象佳なり

◎ 不動産  
 店舗、住宅、建物二棟総坪数五十坪七合五勺、外市内に二町二畝八歩の畑を所有し他五町に相当の不動産あり、  
 抵当権設定なし

業種	業況		従業員	推定年商	正味身代	開業	営業	マーク	営業所	氏名	電話	備考
	種別	所										
兼業	甲	三百十一円八十八円	十名	約四十万円		明治廿年	卸	旭川市二条通十四丁目	二藤英治氏(四九)	旭川一ニ二一	店舗建物自己所有	
卸商組合長	銀行	金融	回収	販賣	仕入元	支払振	扱	十二銀行、道銀、北門支店	家族五名	保建地 一万円	用対物 甲	
	乙の上	現金外は	全道	甲	東京の外株、その他	甲	甲	北門支店	有價証券	不動産 約三十万円	信対人 甲	



当店はもと今井呉服店支店なりしが、支配人たりし先代耕造氏が閉店跡を譲受けたるものにて先代歿後兄造氏相續せしが、大正八年死亡せるより其弟たる当主相續したるものなり。現支配人鈴木氏はもと(今井時代)金物部を担当せし人にして、仕入は古参、番頭担当し相續の繁昌振を示せるも当分は尚今井支店時代の商標に復し難し。

◎ 不動産

店舗、敷地、外郊外土地を有し居りたるも最近宅地の一半を他に賣却せるもの、如くなれば細目省略

營業所	北海道根室郡根室町線町	氏名	山崎庄吉氏(五)
マーク	庄	電話	ナレ
營業	小売	保証物	
開業	明治四十年頃	債権	
正身代		不動産	約五十坪
推定年間	年々約五十万円	有価証券	
従業員	五人	家族	
業況	丙	貯蓄	底相
地租		銀行	
所借		根室支店	
備考		店研建物自己所有	

約二十年前の開業なるも進展力鈍く故年  
前実弟合家準備として今市に某店の閉店  
の跡を買受けたるも之れが為には却つて運転  
資金乏乏の決済概良好ならず消化力亦  
少なきより従前の取引先は一変したる如  
く目下函館市の問屋とは迄取引をな  
し他は小口現金取引大部分の如し

◎不動産  
店舗建物吉原其他

開業事業	額	業	業	推定	正味	開業	業	マ	業
	地相	所得	業	年商	身代	業	業	ーク	業所
	ナシ	百八十九円 百九十五円	甲	約十八万円		明治四十三年	小賣	カ	小樽市 箱館町西五百一
備考	銀行	金融	田収	取費	支払振	仕入先	振込	担当有	氏名
	第一支店	甲	現金六分 帳目四分	店費にて附近	甲	小樽、東京、京阪	呉服、綿布、毛織、菓子	安田キヨ子	電話小樽八五二番
店鋪借家	用	信	性	家	有	不	保	実弟	安田キヨ子
	對物	對人	質	族	層	動産	建物	藤木直四郎氏(三)	女(三六)
	乙	甲女	相当者 皮肉屋	五人月滿			冬萬円		

本店は先代末八郎氏の開業にして先代は  
 富山縣佐野町の人にして明治四十三年市内  
 手宮町にて洋服太物の行商を始め翌年豊川  
 町に開店し漸次順調に経過せしが、大正七  
 年歿後末八人キヨ女相続継承す、八年六  
 月既成安田吉三郎氏が廢業するに際し  
 其跡を引受けて現所に移転せり、目下  
 營業はキヨ女の実弟藤木氏担当し居小  
 り、店舗の位置良好にして親戚吉三  
 郎氏の後継もあり担当者熱心と相  
 俟つて今日の業破をなせり、担当者は  
 營業熱心の人なり、大いに値押し品撰

び八登しく且つ皮肉を運送する方な  
 るより問屋側には一部印象佳なり、さ  
 るものあり、乍然支払に申分なき為  
 め取引は円満に持続せし居れり、  
 因に  
 店舗及番地は前記吉三郎氏より借  
 借にして不動産なし

營業所	北海道空知郡若見澤町一ノ四一	
マーク	①	
營業	小賣	販賣品
開業	個人明治四十三年	吳取ニ本物五 莫六小産貨三
設立	會社大正十五年	小澤藤木氏大部合して 他は東京、京坂
資本金	二万五千円	仕入先
推定年商	約十二万円	支拂先
従業員	七人	販賣
業況		回収
種別	百貨三十六円三十四銭	金融
所得	ナシ	銀行
地租	ナシ	道銀 岩見澤支店
関係事業	小樽市にて砂糖小麦販賣も居れり	備考
氏名	合資會社 今井星 今井吳取店	
代表者	今井 大 郎 氏 (二九)	
支配人	今井 欽 次 郎 氏 (四〇)	
株式	一万円	
積立	二万円	
不動産		
有価証券		
家族		
性質	代表者 温和	
信用	甲	
用対物	乙	

本店はもと株式会社合井呉服店の支店  
なりしが代表社員の前代六郎氏へ合井  
藤七代親族の嫡養子への個人経営に移  
せるものなり、大正七年先代没後当主  
相續襲名せり。然るに大正九年代表社  
員が小樽市に於て別に経営せる砂糖小  
麦業に失敗せる以来當吳服部にも波及  
し加ふるに前年の火災に因る損害等に  
て金賦上の苦痛絶えず目下代表社員所  
有不動産は多く抵當権を設定されあり  
大正十五年五月合資会社となし同時に  
釧路市にて公業を営める合井鉄次郎氏

が本店を閉店し當店支配人となれるが  
又聞するにこれば鉄次郎氏も若干出  
資をなす雇用を圖る計画あるも、何分  
にも資金薄にて目下苦戦の状態にあり  
利益を上げ得る近には相當の年月を要す  
べし。

つ (北海道)

業況	税額		従業員	推定年商	資本金	開業年	営業	支店	支店	社名	支配人	記	大	修	次	(三七)
	所得	地租														
甲	二百八十一円四十二銭	六円八十八銭	(支店のみ) 十名	(支店のみ) 約三十五万円	約三十五万円	大正十一年七月会社	加工卸小賣	函館市鶴岡町六四本店兼工場合井新野五 支店小樽市相穂町	合井鉄次郎	合井鉄次郎	合井鉄次郎	合井鉄次郎	合井鉄次郎	合井鉄次郎	合井鉄次郎	合井鉄次郎
	銀行		金融	回収	支取振	仕入元	取引									
	拓殖北門函館		甲	現金	甲	東京小樽各店	錦町									
	百十三各支店			六十九日												
	信託		性質	家族	有價証券	不動産	保建物									
	甲						三十円									
	代表者															
	渡島国上磯町に石灰工場を兼営す															
	備考															

代表者  
渡島国上磯町に石灰工場を兼営す

備考







店主は新、瀧縣出身にして小樽及函館の  
 今井吳服店の帳場として勤続後前揚年  
 月現所に独立開業せるものなり、人物  
 一徹なるも遺り口手堅く全町企業中の  
 人物を以て推され組長たるも商勢は不  
 振にして活気なし乍然全地に於ては正  
 味資産三四万円を有すと評せられ取引  
 に就いては懸念なきもの如し。

◎ 不動産

店鋪敷地及附近開墾地を有するも細目  
 省略。

業種	業況	従業員	持株正商	正味身代	開業	營業	マ	營業新
	甲の下	十四人	約五五円		大正八年	小賣	勝	旭川市二条通七丁目右九十号
備考	銀行	金融	回収	取債	仕入先	取品	補注	氏名
	十二銀行 拓殖銀行支店	乙	現金の外は 未引く	旭川界五に地元五郎	乙の上	東京小樽 早坂口、端三、モス、 共産社、貸三	全席	松村勝次郎氏(白己)
店鋪建物自己所有	信託入	信託入	債権	家族	不動産	取債	全席	電話 旭川長 三三二番
	二	二	六八円満	別場			三六二番 三六二番 (三三) (三三)	

氏は奈良高知郡金橋村宇本坊成入三七番地戸主にして最初三人の合券と共に各地に行商と稱し居りたるが、大正六年北海道に至り各所に吳服大物の陳列販賣をなし居たるが、相當の成績を収めたるより、大正七年一旅を纏めて渡道し現所に營業を開始するに至り、尔来漸進し目下所掲の商内を遂行するに至り、而して營業振は收手なると共に一面買好さの方ならば、大正九年の暴落時代には相當の損失を喫したるも究り角も、こしたる苦波を外部に示す事なく推移し及り、近時吳服田收屋

延するも共に一般不況の余波を受け、業況一時に比し不振の觀あるも、本店の位置は頗る良好なるため尙相當の賣行あり、要するに行商より上りたりと言ふ商團の歴史に於けるは不安なきこと詭也。

◎ 不動産  
旭川市二条通り一丁目(住宅兼仕入部) 木造二階建一棟、下三十三坪、上六坪、外に賣店兼、物置併に有籍地に宅地百五十坪、建物不造二階建一棟、其他若干。

ま (北海道)

營業所 支店 マーク	旭川市二条通り八丁目左二号 全市四条通七丁目左一号		長	氏名 松浦長藏氏(白乙)	担当 支店長 伊藤長次(白乙)	保 建 物	保 商 品	不 動 産	有 價 券	家 族	性 質	信 託 人	用 對 物	備 考	店鋪建物自己所有	關係事業 商業會議所議員 吳服組合長
	營業	小賣														
振 込	仕 入 先	支 料 振	販 賣	回 收	金 融	銀 行	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲
高級吳服三 綿布四 モスリノ 三	東京小樽 京阪	甲	本支店座賣	現金四分 貸費永引勝	十二銀行支店 中越銀行支店 北海道拓殖銀行支店	約於万円	若干あり	六人	溫和	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲



當店は當主の父五之助氏の開業にして元古着商なりしか漸次本業者となれり。五之助氏は目下も存生し南五条西二丁目二番地に於て質業を經營し居れり。最近三万七千円を投じて店舗を増設し父の援助を得て盛んに營業を發展に力め目下日商約千五百円を遂行し居り然れども同業今井商店との対抗には尙資金薄弱の概あり。氏は時に大言壯語を弄する事あり。要するに氏の資産の外父五之助氏の相続者として取引者は取引を継続し居れり。父五之助氏は地租百八十九円所得税七

百八十三円八十文を収め居る資産家なり。

營業所 マーク	小樽市八船町一ノ廿五		氏名 前川 傳 策 氏 (四三)	電話小樽一、二一五番 五六六番
	營業	卸賣		
開業	大正九年九月	扱品	モスリン 洋及物	保建物
資本金 金未済		仕入先	東京、大阪、名古屋	險商品
推定年商	約百万円	支拂振	甲	不動産
従業員	廿一名	取費	全道 樟太	有價証券
業況	甲	回収	永引く	家族
税 額	營業	金融	甲	性質
	所得	銀行	第一銀行	如才なま方
關係事業 (重役)	地租	備考 (店舗) 借家	中越銀行小樽支店	信對人
			甲	用對物
	八百七十七錢			甲



全店は全市全業中の第一流に数へられ、織物の外英大小雜貨等を販賣し居れり。店主はなほくは如才なま人にし、且つ世話好きなるが附近の信望厚く目下推され、町會議員たり。仕入は東京、京阪、小樽等なるが其内選平は小樽仕入なり、店務は息が市代担当し居るが欠亦担当に商才あり。店主の資産は世評拾万円で此れ金融銀行等にして支振振は良好の部に数へらる。

関係事業	税額		業況	従業員	指定年商	正味身代	開業	營業	マーク	營業所	氏名	補任者	住所	電話	小樽	番	備考	
	所得	地租																
	二百五十二円七十八銭	ナシ	甲	拾名	約拾五万円		明治二十四年	卸	ト	小樽市上ノ山町四七	小堀 橋吉氏 (四三)	良太郎氏 (三九)	章吉氏 (二七)	小樽	三八番		店舖建物自己所有	
	銀行	金融	回収	販賣	仕入先	坂呂	絹布、綿布、毛織物、卸	東京、京阪、遠三	甲	全道鉄道沿線	三、六、九、十、日以上に及ぶ	甲	三井銀行小樽支店	第一銀行小樽支店	信	甲	甲	
											家族	七名	温厚着実					
											不動産	約拾五万円						
											有價証券	相當						
											險	五万円						
											保	五万円						

本店は先代の開業にして江州彦根出身  
なり。小樽市開拓間もなる頃より本市  
に於て醬油醸造業兼織物卸業を經營  
せる有力者石橋氏と姻戚關係あるところよ  
り本市に本業を開設し、亦亦着々全道  
に地盤を拓き延福の地を以てして販賣に  
意を注ぎ、昭和五年々相當の利益を得、  
資産と貯積したる。先代病歿後、當主継  
承したる後、その遺り口先代時代と変化  
なく、専ら堅實地味に經營し居るは無難に  
して現今資産約八十万円と稱せられ、正  
金と多額貯蓄し居るを以て三三三三居れり

さ小は仕入、支那振天に奇麗にして上場  
の商内を遂行して小樽卸界の白眉と  
稱され居れり  
資産概要  
小樽市上町四七  
建物並に宅地百八坪五合八分  
外全道に渡り開墾地、柳里に田畑宅  
地、建物、書畫、寺相堂

開業所	函館市松風町二六〇	氏名	小山 兵三 郎 氏 (台三)
至	二〇二〇屋	補佐	現 小山 信次 郎 (三三)
營業	小賣及卸	保	三萬円
開業	大正元年	不動産	約三万円
正味身代		負債	約三万円
推定年商	小賣約二十五万円 卸約十万円	資	四人
従業員	十五名	機	機材が才なし
業況	甲	信	甲
税	二百八十三円五十四銭	月	乙
額	百五十八円十八銭	信	甲
地租	十八円	月	乙
関係事業	函館所得税調査委員	備考	店舗建物自己所有
		銀行	百十三銀行 十三銀行支店
		全額	甲
		仕入先	東京大坂名古屋
		支払振	甲
		販賣	地元及附近
		回収	現金六、貸四
		保	三萬円
		不動産	約三万円
		負債	約三万円
		資	四人
		機	機材が才なし
		信	甲
		月	乙







(道海北) 二

本店は江州の人小杉五郎左衛門氏の個人経営店舗を明治三十六年十月一族合名の会社組織とせむに始まり尔来幾變遷あり目下本店の外東京店小樽店大阪仕入店等あり本店は小樽店よりも十年前の開業にして全地方には確固たる地盤のり全市第一流の卸商として名声あり同社全体の資本金は百万円にして内本店は大約三十万円見當の資金を擁し近年多少小樽店に押され気味なるも尚相當の優勢を占せり要するに各店全一会社な

るも資金関係は嚴に各店區別しあり現状無難に推移し居るものなり。

二 (北海道)

業種	業況	従業員	推定年商	三身代	開業	営業	屋号	事務所	資本	氏名	支配人	保証	信託	銀行	銀行 店舗 建物 自己 所有
	乙	十九名	約四十萬円		明治四十一年六月	卸	一町即榮ニ支店	函館市地蔵町四四	乙	郡三四郎氏(白田)	六ツ田保ニ代(五三)	約四十万 約四十万	約四十万 約四十万	北海道拓殖銀行 第十二銀行 安田千五百 十三銀行支店	
	乙	大部永引く方	全道各地	乙	東京和歌山大阪	役員		銀行	乙		六ツ田保ニ代(五三)	約四十万 約四十万	約四十万 約四十万		

営主の亡兄栄二氏は徳島市に於て綿布  
 綿糸の製造を営みしが明治四十年  
 函館市大火機現支配人販路開拓の爲  
 の渡道し當市に出張店を設け其後  
 前場年月支店とし大正五年本店の綿  
 布卸店上と共に三四郎氏渡道経営の  
 街に留り氏は仕入に際し値押強  
 く時に支払を引延せしむることもあり  
 要するに同店は対人より対物的に信用  
 あり

◎不動産  
 店舗の外郷里に田畑相当に有する外  
 十勝所在畑百三十町歩 帯本市街  
 地十町歩  
 有價証券 福壽紡十株の外  
 富士製紙 阿波商業銀行 台湾銀  
 日石 南海鉄道 三井銀 勸銀株等多数

出資社員	額 税		業 况	従業員	推定年商	資本金	開 業	営 業	マ ー ク	営 業 所	社 名	代 表 者	備 考
	地 租	所 得											
二万五千円 二万五千円(父)	二万七千六百五十六円 三十九万九千九百九十九円	二万七千六百五十六円 三十九万九千九百九十九円	乙	八名	約十一万五千円	約五万五千円	個人明治廿六年 全社大正九年	小 費	(き)	北海道空知郡岩見沢町二条東一ノ二	合資会社 北原商店	北原喜一郎氏(三)	
代表(三男) 北原喜一郎 北原徳太郎	銀行	金融	乙	回収	取 費	支払機	仕入先	取 品		呉服三、木物五、雜貨二	東京 小樽		
	北海道殖産銀行			現金回 貸は引く	店 費	甲							
	信 託	性 質	家 族	有 限 公 司	不 動 産	商 品	建 物						
	対 物	代 表 者	代 表 者										
	丙	温 厚	八 人		約二万五千円	三万五千円	一万五千円						

當店は現代表者有の父徳太郎が開業したるものにして大正七八年の好況時代には売上約三十万円資産約四十万円と稱せしれしが大正九年の恐慌に会したるに開業事業に投じたる資金が固定したる等にて金融苦澁となり整理して現組織とせるものなり、尔後營業は振はざるが最近親戚方面より若干の新資金を得たると共に代表社員の新有する開墾地が三十五万円に處分し得る見当つきたるより負債を差引くも尙剩余あるに比の事実現せば同店の復活は期待し得べし。目下主として小樽羽商店より商品供給を乞う居

りて此の外は補助買にて現今の支拂は確實に履行され居り。

開業事業	税		業	従業員	推定手商	正味身代	開業	營業	マーク	營業所	氏名	三井治平 小樽市東三番町二番地
	所得	地租										
	四百廿四円四十四銭	十シ	乙	二十五人	約八十万円		支店設置 大正四年	卸	其	小樽市入舟町一三	三井治平 小樽市東三番町二番地	電話小樽八六一番
備考	銀行	金融	乙	永引勝	北海全道	乙	各産地 東京 京阪	振品	仕入先	支払振	取費	回収
	第一中越十二 四十七銀行支店							中越銀行 種貸及費				
	信用	性質	家庭	有價証券	不動産	保險	保	三男	三井清次 小樽市東三番町二番地	三井清次 小樽市東三番町二番地	約九万円	六万円
	甲	甲	清次次三子あり内満									

本店は富山市東三番町二番地

本店は通般全市鎌田呉服店の財産に合し  
約貳万参千円の缺損を生じたる昔年次  
若干の損失を計上し居るもの、如く要する  
に不昧状態なる為め一説には早晚小樽列  
上げの噂を傳ふるものあるが同店は之を否  
定し居り、  
小樽市入舟町一丁目十三ノ二  
宅地七十一坪二合七夕  
〃 〃 〃 十四ノ二  
〃 〃 〃 三十二坪二合  
前記土地にはカネカガ式并カネカガの総額  
三万円の抵当金の設定あり、

関係事業	額	業	従業員	指定年商	五味身代	開業	營業	屋号	營業所
	地租	概算	概算	概算	概算	概算	概算	概算	概算
備考	四十六支	二百廿七円七十支 二百五十九円廿八支	甲	七八	約八五円	明治三十二年三月廿五日	小樽	函館市忠比壽町四〇	柴田 政 治 次 (五二)
	銀行	金融	回収	取費	支取振	仕入支	取立	〇 赤のれん	柴田 政 治 次 (五二)
	安田支店	第十二銀行支店	乙	現金の外 三六千円	座賣地元近郊	東京、大阪、京都	老附請 証文物主 此物主に 不取入	担当看 仕入寸 中島 國造 次 (三三)	電話 函館一〇五七番
	信対入	信対入	性度	家族	有償証券	不動産	保 險	約三百円	六万三千円
	乙	甲	乙	六八円端					

氏は多年土地の某店に奉公し退店の際二百円の慰勞を得たるを資本として明治三十六年開業したる土地柄事業店としては尚平の感下りより経営には相当苦慮せしめはなかく奮闘家にして種方消化に努め利益金は全部營業資金に繰入の積極的に業容を拡張し来りたるに明治四十年先は大正十年の二回の大火災に遭し相當の損害を蒙りたるものなれども全額には餘裕なきものなれども奮闘家百には一般の氣受ける良好にして要下るに現状維持に支障なきものなり

所有地  
 公市河龜田村湯ノ川通二ノ二〇  
 宅地 百十五坪  
 以上は大正十四年買得せるものにて  
 目下抵当金の設定なし

関係事業	税務	従業員	正味身代	開業	營業	マーク	營業所
	所得 地租	十名	約十五萬円	明治二十五年	小費	(大)	北海道樺戸郡夕張町本町
備考	銀行	回収	支取	仕入先	取扱品	氏名	西南嘉平氏(五〇)
	第一銀行札幌支店 拓殖銀行支店 北海道産産銀行	現金三分 貸付七分	乙の上	小樽徳武支店を主とし 東京名京支店	綿布、毛織物、三羽布 雑貨等	電話夕張一四番	
備考	債権	家族	不動産	保険	保建物	店鋪建物自己所有	
	甲 乙	七人田島 温和	約十萬円	五萬円			

氏は越後興成町出身にして少時札幌令并  
 吳服店に奉公し果進して幹部故となり  
 揚題年月商業したるが正承漸進して旭川  
 に支店を設くるなど優勢振りを示せるが  
 大正九年の恐慌には両店とも相當の打撃  
 を負ひ結局数年前旭川支店は隆陞し約十  
 万円の鉄損勘定となり整理の結果負債額  
 の減少を求せるも尚是が負担を取引銀行  
 に残留し居るもの如し、現時店主は更  
 に繁賑も業家の再振に力め居る爲め現収  
 のみを以てせば、相當の業績を収め居ら  
 り何れにしても仕入は大部分旧主關係に當る

小樽藤武衣商店なれば相當の業績あり  
 目下經營に支障なし、因に旭川支  
 店の残留負債あるも店主は資産十萬  
 圓を有すと評され居るものなれば、結  
 局欠陥なく推移するものと思はる。

營業所	支店	旭川市 美砂町一四 釧路市 西野町二 北見 國澤町 野付町	支店	小樽 東原 為京 阪	氏名	西 南 榮・浩氏 (五四)
	マッ	知小賣	仕入先	小樽 東原 為京 阪	左 衛 門 右 衛 門	電話 釧路 長 一 三 五
開業	明治四十年	仕入先	小樽 東原 為京 阪	保 建 物	本 店 支 店 三 任 五 十 萬 圓 次 代 (三二)	支 店 支 店 主 任 附 上 負 債 氏 (三五)
正味身代		支 辨 取	甲	不 動 産	約 拾 萬 圓	
推定仕向	約三十万円	販 賣	地 元 近 郊	有 價 証 券		
従業員	本店 十五人 支店 七人	回 收	現金外は永引く	家 族	九人 円満	
業 況	乙	金 融	甲	性 質	温厚の人格者	
税 務	四百三十六万九千九百 十圓 二百二十五万六千 四十七万二千圓	銀 行	西 野 釧 路 支 店 安 田	結 対 人	甲	
關係事業	株式會社藤武衣吳服店取締役 同市吳服組合長 市會議員			備 考	店鋪定切自己所有	

氏は越後興板町の人にして年少の頃より札幌市今井吳販店に奉公し勤続約二十年にして主家に盡す所ありしが明治三十八年頃無事退店し現所に新業を開始せしが順調に経過して規模を擴張し支店を全市釋前通り并に野村牛に設置するに至れり。仕入は値押品撰等嚴重なれども問屋側の気受けは良好にして円満なる取引振りを示し居れり。販賣に對しては店員を督し消化に努力し居りて近時不況にも係らず消化力としては昨年度と大差なき状態

にあるが如く取引は敢て懸念の要なきものと思料さる。  
 不動産  
 釧路市街宅地三千五百八十九坪六合八勺を有す。  
 以上抵當権設定なし。内重なるもの左の如し。  
 全市真砂町一四ノ一  
 宅地百三十九坪  
 全市宇釧路村西帯舞一八ノ七  
 宅地二百八十坪 外省略

営業所	北海道北見国常呂郡野付牛町		店名	三 角 栄 河 支 店	
	電話 野付牛一三番			支店八 佐 藤 誠 一 次 (三七)	
マーク	(三)		保証	誠 一 次 (三七)	
營業	卸 小賣	取引	保証	五 萬 円	
開業	明治四十四年	仕入元	保証	釧路店の分参照	
正味身代		支拂振	保証		
積定年商	小賣約七万円 卸約十三万円	取賣	保証		
従業員	八名	回収	保証		
業況	乙	金融	保証		
税	營業 冬百五十円 地租 二百円	銀行	保証		
關係事業	店主 藤式良商店監査役	安田銀行支店 石越銀行支店 十二銀行支店	保証		
備考	店舖建物店主両角氏所有		保証		





氏は越後柏崎町の人にして明治四十年渡道  
 し最初叔父中沢宗治郎氏が宣撫に成功  
 し居たるより氏の援助を受け贈與股店を営  
 み居るが漸次成功して今日の業礎を爲す  
 に至り、氏は右の如き關係上店賣より外売  
 多き爲り回収遅延し繰廻りに困難の觀ある  
 ちかざる方面には利根を爲し調節を計り  
 一面には二人の弟に補佐せしめて経費を  
 節減し経営に支障なきを期し居り、

因に不動産としては  
 現店舖建物敷地外借家若干  
 を所有し居り

十 (北海道)		業 況		資本金	設 立	業 業	支 店	出 入 店	仕 入 店	社 名	備 考
重 役	領 税	業 業	業 業	業 業	業 業	業 業	業 業	業 業	業 業	業 業	店舖建物会社所有
	地 租	所 得	所 得	所 得	所 得	所 得	所 得	所 得	所 得	所 得	
取締役代表壽原英太郎氏 取締役壽原勇三郎氏 監査役砂土居喜一郎氏		二十二百五十一月六十号 四十五百九十六月九十号 六十七月六十八号	甲	約百五万円	約百五万円	約百五万円	約百五万円	約百五万円	約百五万円	壽原商事株式会社 電話小樽長八八〇番 支店小樽長八八〇番	十二銀行 中越銀行 北海道銀行 小樽支店
取締役代表壽原英太郎氏 取締役壽原勇三郎氏 監査役砂土居喜一郎氏		銀行	金融	取扱	仕入先	取扱	仕入先	取扱	仕入先	壽原商事株式会社 電話小樽長八八〇番 支店小樽長八八〇番	十二銀行 中越銀行 北海道銀行 小樽支店

富山縣福岡町出身壽原猪之吉氏の創業な  
り、現代表社員の前代にして全族に重太郎  
氏、英太郎氏、勇三郎氏（猪之吉氏皆養子）  
等あり、前掲年月株式会社としたるが、未業  
績順調にして昨年末に於ける淨六回決算には  
純利益六千五百円の利益を計上し、前期繰越の  
五千円を加へて八千七百円の内、金五千円を積  
立て、残益八千二百餘円は本期に繰越せり

◎社有不動産

- 小樽市八軒町一ノ七
- 空地 九十三坪七合三勺
- 全市相生町三ノ七
- 空地 九十五坪一合七勺
- 全市全町三ノ九
- 空地 八坪
- 全市八軒町一ノ一九
- 空地 百六坪一合四勺
- 全市住永町一ノ十一
- 空地 三十一坪八合

昭和貳年八月一日印刷  
昭和貳年八月十日發行

不許  
複製

非賣品

發行所

東京市是橋區長谷町三番地  
東京信用交換所

編纂兼  
發行者

東京市是橋區長谷町三番地  
高橋虎豹 大

印刷者

東京市是橋區長谷町三番地  
宮澤 得

印刷所

東京市是橋區長谷町三番地  
共行舎印刷所

308

677

終